

## 研究報告

# 「母親の心の健康チェックシート」を用いた 訪問による育児相談における母親の語り

長野県看護大学

清水 嘉子      佐々木美果      小川 紀子      塩澤 綾乃  
宮原美知留      赤羽 洋子      阿部 正子      藤原 聡子

## 抄 録

本研究は、「母親の心の健康チェックシート」を用いた家庭訪問による育児相談を行い、相談時の母親の語りを明らかにすることを目的とした。相談員は7人であり、協力した母親は11.95 (SD3.91) か月の子どもを持つ20人であった。母親は専業主婦が80%であり、子ども数は一人が90%であった。分析では、相談時の母親の215コードの語りを質的帰納的に、語りの意味に着目しカテゴリーにまとめ命名した。母親の語りは、【自分に対する思い】が最も多く、＜子どもへの影響を意識する＞＜育児中の時間＞＜子育てすることで感じる自分の成長＞他4カテゴリーに対応した18サブカテゴリーであった。次いで、【夫や周囲の人に対する思い】では、＜夫や周囲の人の育児に対する態度＞＜夫に対する折り合い＞＜育児による新たな変化＞に対応した9サブカテゴリーであった。【子どもに対する思い】では、＜子どもの存在＞＜子どもに対する不安＞に対応した8サブカテゴリーであった。育児相談時にチェックシートを用いることで、相談員は母親に多くの語りを引き出すことができた。また、母親に語らせることによって母親が気持ちに気づき、受け止められる、認められる、安心するなどの有効な支援に支えられていることが示唆された。

キーワード：乳幼児をもつ母親、健康チェックシート、育児相談、語り、家庭訪問

## I. はじめに

子育て支援は、次の親世代の支援に通じる重要な課題である。近年、少子高齢化にあって高齢者支援に注目が集まっているが、女性が産み育てるといった生殖の営みに着目した支援を軽視することはできないと考える。なぜならば、子育ては親から子に世代間の連鎖をすることが明らかにされており、母親への子育て支援によって、次世代の親世代を育てていると考えられる。子育てしている母親が孤立化しやすい現代にあって、専門職が良き相談相手となることが求められている。育児相談の効果には“子育ての助けが得られた”“楽な気持ちになれた”“子育てに肯定的になれた”

“子育ての価値が高まった”など良い評価が得られている<sup>1)</sup>。特に、コミュニケーションが苦手、外に出ることがおっくうなどの理由から、公的な健診や教室に参加することなく、密室での育児を行っている母親がおり、こうした対象への支援には訪問による個別相談は欠かせないと考える。中には、訪問に戸惑いや不安を感じる対象者もいるが、母親の4人に一人は困り事があると認識しながら育児をしている現状にあって、育児困難感を抱いている人は“生活が疲れる”“イライラする”“育児が負担である”と感じる傾向が強いことから<sup>2)</sup>、有効な支援が期待されるところである。

平成26年3月17日受付、平成26年10月29日受理

研究者は育児をネガティブな側面のみならずポジティブな側面が多く存在していることを母親が気づき、その気持ちを大切にすることによって、母親の育児幸福感を高める支援の必要性を提案している<sup>3)</sup>。こうしたことから、相談に活用するための「母親の心の健康チェックシート」を作成した(以下チェックシートとする)<sup>4)</sup>。そこで相談員のかかわりを分析することにより、相談員が母親の気持ちの受け止めや気づくこと、安心させる、考えを認めるなどの関わりが明らかにされている。相談員は、母親に子育てが今のままで良いことに気づかせ、子どもが成長過程にあることを伝えることで安心させ、子育てに対する母親の考え方を認めていた。つまりは、相談員が母親の思いの語りを受けて、子育てによる心身の大変さ、時間に制限が生じる大変さ、子どもの成長に伴う不安、子育てで感じたさみしさ、子どもが大切な存在だと思う、子どもがほめられて嬉しい、子どもの様子から安心した、子どもを叱ることで葛藤する、夫や周囲の人の育児支援に対する感謝、夫の子育てに対する想い、こうした様々な気持ちを出させながら受け止めていた。さらに、子どもをかわいいと思う気持ちが大切であること、夫婦で協力する子育てが子どもによい影響を与えていること、夫や周囲の人の育児支援が受けられていること、子育てがよくできていること、子どもを理解できていることに気づかせる関わりがあった。加えて、子どもが成長していること、子どもの成長には個人差があること、子どもの成長が順調であること、子どもが母親を大切に思っていること、他の夫も同様であることを伝え安心させる、子どもへの関わり方や子どもの長所を伸ばしたい気持ちを認めていた。これらの関わりは、チェックシートを活用しながら母親の語りを導き出し、その思いに対して行われていた。これらの結果については、別途報告する。今回、本研究では、相談員の関わりにより導かれた母親の語りを明らかにすることを目的とする。母親の様々な思いを知ることにより、今後の育児相談において相談員が母親への理解をより深めるとともに、チェックシートの活用の可能性と課題について検討する一助としたいと考える。

## II. 研究方法

家庭訪問では、母親が子育てしている生活の場で、ゆったりした気持ちで話をするができると考え、チェックシートを用いた育児相談を訪問によって行った。

### 1. 研究期間

平成 24 年 2 月～25 年 2 月に行われた。

### 2. 研究参加者

研究参加者は、乳幼児期にある子どもの育児をしている A 市内在住の母親 20 人である。対象の抽出は、本研究に先行して 3 か月の子どもをもつ 700 人を対象とした質問紙による縦断調査から本研究の依頼の対象者を抽出した。依頼の時点で回収の得られている 150 人の育児幸福感の分析を行い、育児幸福感に高い値の傾向にあることを確認した。研究協力の依頼は、依頼文によって便宜上育児幸福感値の低値から 50 人に行った。その理由は、低値の回答者の傾向として、“子どもとの絆”の 3 項目に回答がないものが多いが、他 2 つの下位項目“育児の喜び”は 23 点、“夫からの支援”は 17 点と上位の母親と同じ値の傾向にあった。そこで本研究において、“子どもとの絆”について回答のなかった母親から、チェックシートを用いた相談の中で確認することにした。

### 3. 研究参加への依頼方法

研究の目的や方法、倫理的配慮に関する内容を記した依頼文を送り同意の返信の得られた者に対して、具体的な日程調整の電話を入れた。家庭訪問による育児相談時には、再度説明し同意書にサインを求めた。

### 4. 相談員の背景

相談員は大学の研究代表者と同じ看護分野に所属する共同研究者である教員 7 人である。教員は訪問地区のバランスを考慮して 2～3 名の母親を担当した。教員は、研究の趣旨を十分に理解し、助産師としての臨床経験は 5 年以上を有している。

### 5. 介入方法

#### 1) 訪問時期と回数

訪問は平成 24 年 2 月に行った。訪問回数は 3 回であったが、今回の母親の語りの分析は 1 回目の訪問とした。

## 2) 母親の心の健康チェックシートについて

育児ストレスと育児幸福感の状況を知るため29項目で構成されるチェックシートを作成した<sup>4)</sup>。このチェックシートは、育児ストレス短縮版16項目(“育児の喜び”4項目, “子どもとの絆”4項目, “夫からの支援”4項目から構成される)<sup>5)</sup>と育児幸福感短縮版13項目(“心身の疲労”6項目, “育児不安”6項目, “夫の支援のなさ”4項目から構成される)<sup>6)</sup>に対する基本統計量と $\alpha$ 係数を確認し, 各下位尺度得点を, パーセンタイルに変換するための個人プロフィール表とした。母親の育児ストレスや育児幸福感を測る両尺度の信頼性・妥当性は検証されている。チェックシートには数値を解釈するための個人プロフィール表を配置している。得点の高さの意味的な理由, すなわち, 乳幼児期の子どもをもつ母親の心の健康は, 母親の育児ストレスが低く, 育児幸福感が高いことが, 「母親の心の健康」の状態が良いと仮定している。このことから個人プロフィール表の値は, 育児幸福感は最大値から始まり, 育児ストレスは最小値から始まるようにした。つまり, 上部に個人の得点がプロットされているほど心理的に健康的であると解釈できる。

## 3) 相談の内容と進め方

訪問時の相談では, チェックシートを用いてチェックシートにある29項目に対する評価と項目に対する事情を確認する。また, 先行研究<sup>7)</sup>により, 育児幸福感を高めるプログラムの中で実施した“母親が頑張っていると思うところ”や“自分のいいところ”について相談の最後に尋ねた。

相談員の共通認識として, 母親の体験を引き出しながらチェックシートを用い, ①項目に対する母親の認識を確認し, 気持ちに共感しながら尋ねること, ②母親が気づいていない育児幸福感に気づかせ, その気持ちを大切にすることをすることとした。たとえば, “質問項目を読み上げ, 母親が答えたのちに, どのようなことからそう思いますか, その気持ちはどのような時に感じますか, ・ ・ ・ など聞きながら, そうなんです。私もそのことは良くわかります。と, 相談員の気持ちを伝えながら共感する。”加えて, ③チェック

シートとは別に母親が感じている心配や不安について相談にのった。相談時は許可を得て録音機を用いて相談時の母親の語りを録音した。

## 6. 分析方法

逐語録に起こされたデータを母親の語りに着目して, 語りの意味別に分類し, 下位サブカテゴリー, サブカテゴリー, カテゴリーとして命名した。分類を進めていく上では, 研究者と育児に関する研究の経験のある共同研究者1名により行った。一致しない項目は, 議論による検討を深め一致する内容を採用した。

## 7. 倫理的な配慮

平成23年度(承認番号2011-22.23)のN看護大学倫理委員会の審査で承認を得た後, 倫理的な配慮に基づいた依頼文を用い, 自由意思による参加や個人情報の厳守, 研究開始後の辞退の自由, 相談中の中止の保証と相談に要する時間は1時間程度とすることについて説明し, 協力の同意は同意書にサインを得た。

## III. 結果

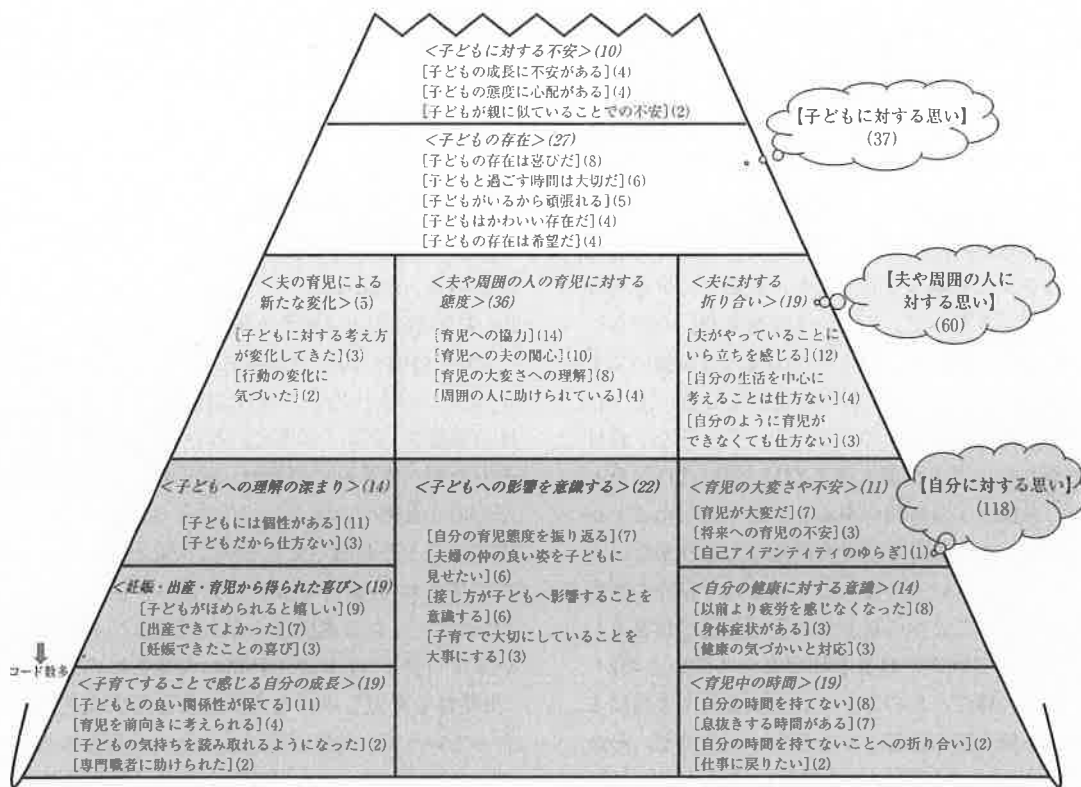
### 1. 研究協力者の属性

研究に協力の同意を得たのは20人(40%)であった。母親の年齢は, 相談時で $30.8 \pm 4.78$ 歳(最大41歳, 最小26歳), 子どもの人数は1人が18人(90%), 2人と3人がそれぞれ1人(0.5%)であった。子どもの末子の年齢は11.95か月(SD3.91か月)であった。就労状況では専業主婦が16人(80%)であり, 家族形態では核家族が17人(85%)であった。

### 2. 育児相談時の母親の語り

結果では, 領域は【】, カテゴリーは<>, サブカテゴリーは「」で示し, コードであるローデータは“”に示した(図1)。末尾の( )内の数字は, 母親の事例番号(1から20)である。特にローデータを解釈するために研究者が文脈から言葉を「」に補った。なお, 分析に用いた語りのコードは合計215件であった。

健康チェックシートを用いた, 育児相談で母親は, 【自分に対する思い】で, コード数118件, 【夫や周囲の人に対する思い】で, コード数60件, 【子どもに対する思い】で, コード数37件の3つの領域があった(図1)。



< > はカテゴリ, [ ] はサブカテゴリ, ( ) はコード数を示す n = 20

図 1 育児相談における母親の思いの語り

1) 自分に対する思い

【自分に対する思い】には、7つのカテゴリがあった。<子どもへの影響を意識する>では、“自分の都合で怒ると可哀そうなことしたと思ってごめんねって。お母さんこんなじゃいけないって意味で(4)”などの「自分の育児態度を振り返る」、 “親が仲良くしているから子どもも嬉しそうだ(2)”などの「夫婦の中のよい姿を子どもに見せたい」、 “子どもに言ってもわからないから、出来るだけそんなに叱らないように自分が工夫出来るところは工夫してやっているんですけど(1)”などの「接し方が子どもに影響することを意識する」、 “褒められたことを伸ばしてあげたいなっていうのはありますね(13)”などの「子育てで大切にしていることを大事にする」があった。

次に多かった<子育てすることで感じる自分の成長>では、“怒るとやっぱり可哀そうなことをしたと思うので、その後何もなかったように抱き

ついて来られると嬉しいです(20)”などの「子どもとの良い関係性が保てる」、 “そんなに自分で考え込む必要もないし、周りも同じように悩んでいるのだからっていうのもわかったし…不安だけどそれを1人で抱え込まなくていい状況がまわりにあるから安心できるという感じですかね(5)”などの「育児を前向きに考えられる」、2件ではあったが、“最初は生まれた時とかは泣いていてどうやったら泣き止むんだらうって。でも今はそんなないかな(11)”などの「子どもの気持ちを読み取れるようになった」、 “夜寝る前の大泣きがすごくて…さすがにまいっちゃって。無料で相談できるところに電話してどうしたらいいかわからないって… {助言してもらって} 楽になりました(17)”などの「専門職者に助けられた」があった。さらに、 <妊娠・出産・育児から得られた喜び>では、“出かけた時にお世辞でもかわいいねって言われたらやっぱり親としては嬉しいから(14)”

などの「子どもがほめられると嬉しい」, “子どもができるか心配なのがあって本当に良かったなと(17)”などの「出産できて良かった」, “不妊症の方とか多いし本当に授かっただけでもありがたいことなのだなって感じますね(14)”などの「妊娠できたことの喜び」があった。

＜育児中の時間＞では, “時間が空いたら離乳食のレシピを調べたり, とか…旦那とビデオ見る時間はできたので。そういう時間もだいぶできたけど, 育児中心になって印象の方が強いですね(10)”などの「自分の時間を持ってない」, “自分のしたことをできている方なのだろうな。自分のやりたいことは減りましたがね(11)”などの「息抜きする時間がある」, “自分のしたことができないことに対して今の時期はしょうがないって割り切っているの(6)”などの「自分の時間を持ってないことへの折り合い」, “今まで仕事をしていたので自分でお金を稼げないっていうのが, うんと苦痛だったのですよ。内職なんて本当にこんなん何千円単位にしかならないですけど, それでも…だいぶ気持ちの面で違いますかね(12)”などの「仕事に戻りたい」があった。

＜子どもへの理解の深まり＞では, “この子なりの成長が見えているので, 不安に思うことはなかったです(12)”などの「子どもには個性がある」, “子どもの行動に対して仕方ないかって思っているから, 面白がっている方なので, やっていても何かやっているって(2)”などの「子どもだから仕方ない」があった。＜自分の健康に対する意識＞では, “夜も授乳している段階から5～6時間しっかり寝ていてくれたもので私も寝られるじゃないですか。他のお母さん達と比べると私はすごく寝ているよなって(6)”などの「以前より疲労を感じなくなった」, “育児のせいなのかよくわからないんですけど, たまに肩が凝ったりとかはある(16)”などの「身体症状がある」, “(疲れは)たまっていると思います。でもバランスが悪い中でもバランスを取っていきこうって思って(5)”などの「健康の気づかいと対応」があった。

＜育児の大変さや不安＞では, “忘れたところにぎゃあっと泣いてみたりして, とか…私自身良く寝る方なので, そういう面では睡眠不足って感

じる時はありますね(3)”などの「育児が大変だ」, “まだ子ども欲しいんですけど, 産んでもいいのかなって十分に育てられるかしらと思います(19)”などの「将来の育児への不安」, “自分が全部子どもについてそれをまっているのはどうなのかと私は思うので…別にそれが希望じゃないという訳でもなく(7)”などの「自己アイデンティティのゆらぎ」があった。

## 2) 夫や周囲の人に対する思いの語り

【夫や周囲の人に対する思い】では, 3つのカテゴリがあった。＜夫や周囲の人の育児に対する態度＞では“本当にいろいろやってくれて, やりたがってくれて可愛がってくれるので(15)”などの「育児への協力」, “今日うるさかった?とか泣いた?とか聞いてくるので, 安心することはありますね(16)”などの「育児への夫の関心」, “わかってくれる範囲はわかってくれていると思います(18)”などの「育児の大変さへの理解」, “出産時も育児もみんな大丈夫だから大丈夫だからって言って, お疲れ様って言うてくれたのもすごくありがたかった(19)”などの「周囲の人に助けられた」があった。また, ＜夫に対する折り合い＞では“俺は(子ども)を見ていうけど, 自分のことが最優先なのでそういう所がイライラします(9)”などの「夫がやっていることにいら立ちを感じる」, “休みの日くらいゆっくりしたいだろうなって…休みの日しかそういう自由な時間はないから, それも取り上げちゃうと可哀そうかなって思って(14)”などの「自分の生活を中心に考えることは仕方ない」“うち1つ替えるのも, 見ると言いたくなっちゃうってからもう任せるっていう気持ちに(3)”などの「自分のように育児ができなくても仕方ない」があった。さらに, ＜夫の育児による新たな変化＞では, “旦那が元々子ども嫌いで結婚もしない, 子どもも作らないだったのが, 結婚もしてくれてすごいと思うし子どもかわいがってくれている時点ですごいと思うし(10)”などの「子どもに対する考え方が変化してきた」, “旦那さんもそういう思い(子どもそのものが希望であること)で仕事をしたり, 勉強したりっていう姿が見えた(20)”などの「行動の変化に気づいた」があった。

## 3) 子どもに対する思いの語り

【子どもに対する思い】では、2つのカテゴリーがあった。〈子どもの存在〉では“子どもがいると嬉しいとか幸せだなと思うことが結構多い(14)”などの「子どもの存在は喜びだ」、「子どもと散歩に出るだけでも楽しい(1)」などの「子どもと過ごす時間は大切だ」、「生きなきゃいけないですもんね、子どものためにね(7)」などの「子どもがいるから頑張れる」、「何をしてもかわいくなって(10)」などの「子どもは可愛い存在だ」、「とにかく顔だけ見ている、本当に子どもは希望だと」思います(9)」などの「子どもの存在は希望だ」があった。また、〈子どもに対する不安〉では“個人差っていうのはわかっているのだけど、そういうの「ママ友達の子どもがみんなできるのに自分の子どもだけができない」を目の当たりにしちゃうと大丈夫かなって不安になったりして(8)”などの「子どもの成長に不安がある」、「気に入らないと泣くよね。わがままなんじゃないかって思って心配(16)」などの「子どもの態度に心配がある」、「私肌が弱いのですよ。だからこの子が同じ風になるとかわいそうだなってというのはちょっとあって(18)」などの「子どもが親に似ていることでの不安」があった。

## IV. 考 察

育児相談は、約1時間程度で行われ、母親は、「心の健康チェックシート」に従った項目に対して自由に語っていた。中でも母親は自分自身のことについて多くを語っていた。〈子どもへの影響を意識する〉語りは、母親としての自覚と行動から生じる思いであり、同時に〈子育てすることで感じる自分の成長〉や、〈子どもへの理解の深まり〉などの語りによって自分なりに母親としての評価をしていた。こうした語りは、〈妊娠・出産・育児から得られた喜び〉によって支えられていることが伺えた。妊娠出産の看護の重要性を改めて実感すると共に、育児中の母親の気持ちの中にしっかりと位置づいていることが明らかにされた。また、〈自分の健康に対する意識〉を向けながら〈育児中の時間〉や、〈育児の大変さや不安〉を抱いていた。育児中の母親に対して、この視点に対する看護が大切だと考える。

夫や周囲の人に対する思いは〈夫や周囲の人の育児に対する態度〉についての語りが多く、よい意味でも悪い意味でも関心の高い事柄であることがわかる。このことは、夫や周囲の人の育児態度の影響の大きさ、すなわち協力や関心、大変さの理解という点において重要であると考えられる。また、〈夫に対する折り合い〉の思いを抱くとともに、〈夫の育児による新たな変化〉を感じていた。夫の努力や変化を感じ取る中で、夫への感謝や評価の思いが伺えた。一方では、不満やイライラの想いも見られており、なかなか変わらない夫に対する現状にどう向き合ったら良いのか戸惑ったり、あきらめたりしている様子がある。

最も少なかった子どもに対する思いでは、〈子どもの存在〉を意識することで、愛情ややりがい、幸福感に近い感情が生まれている。一方では、〈子どもに対する不安〉の思いを持っており、子育て中の母親の抱く思いとしては常にあるものだが、語りの中では少なかった。母親にチェックシートとは別に不安なことについて確認しているにもかかわらず不安が少なかったことは、チェックシートを用いて相談を進めていく中で、新たな気づきや安心感を得て行くことで、不安なことは、大きな問題ではなくなったのではないかと推察され、不安なことは、やり取りのどこかで解決されていたとも考えられた。

母親は、同様の対象者への先行研究から、相談後の感想で、自分や子育てへの気づきや相談の満足感を得ていた。自分に対しては、客観的に自分を見つめられた、自分の変化を確認できた、自分の気持ちに気づけた、意識していないことを考えられたと実感していた。子育てに対しては、子どもへの思いを確認できた、客観的に子育てを見られた、子どもに愛情をそそげた、子どもの成長を確認できていた。相談に対する満足感では、話しやすかった、楽しい時間だった、うれしい、安心した、心強かった、救われたなどが聞かれていた<sup>8)</sup>。こうしたことから、育児相談の時間が母親にとって意義のある時間であったと考えられた。

育児評価が気になる、育児に自信のない母親が増え、健診は合否判定の場となり、子どもの体重

増加や介入に偏りのある祖母との関係、人との関係の希薄さや子どもとの関わりの経験の少なさなどが現代家族の育児様相から明らかにされている<sup>9)</sup>。こうした特性をみてみると、育児相談による個別の対応によって、育児幸福感を高めるためにも母親自身が自らの子育てに気づくことが重要である。ポピュレーションアプローチにおいて重要視されているエンパワーメントを高める関わりにおいても<sup>10)</sup>、楽しい育児、親としての自信、母親としての実感、明るい気持ち、これで良いと思えることなどが注目されている。育児相談の中で母親に多くの思いを語らせたことは特筆すべき点であり、シートの項目に従い、相談員が語りを引き出すことにより、チェックシートを用いて育児相談を進めていくことの有効性が示されたものとする。しかし、今回対象とした母親の末子の子どもの年齢が低く、“子どもの絆”に関する項目では、注意深く聞き出すことの課題があったことから、相談員はあらかじめ子どもとの愛着を感じる言葉かけを準備したが、言葉による子どもの反応を確認する3項目は、うまく語りを引き出せない場面があった。相談員の対応力にも左右される項目と考えられ、子どもの言葉が見られない時期の“子どもとの絆”の項目に対する母親の語りの引きだし方について課題が残された。

母親が、育児に関連した多くの思いを専門職者に聞いてもらい、その思いを受け止められることにより、母親の可能性を引き出す支援に通じるものとする。気持ちを共感することにより、喜びは分かちあうことで倍になり、悲しみは分かちあうことで半分になると考えられる。心の内にあるさまざまな思いである不安やイライラ、苦悩や怒りといった感情を吐き出すことで浄化を促し、自分に気づき自分自身から解放されて、自分の本当の姿に向い合うことでその姿を自分が受け入れることに通じる。母親の育児支援の原点ともいえるこうした関わりにより、母親に生きていく力、勇氣、元氣、安心感を可能とすると考えられた<sup>11)</sup>。ナラティブでは、人間が実感を込めて経験的に理解できることの範囲というのは実は限定されたもので、私たちはそのままでは理解しがたい事態を、すでに慣れ親しんだ話へと移しかえ、それを展開

していくことで、そのままではなかなか理解できないような事態を、理解できるものへと変えていく<sup>12)</sup>。チェックシートを用いた育児相談によって、母親がこうした語りを繰り返して語られることにより、ナラティブ・セラピーとしての効果に通じていくものと期待される。

## V. 結 論

チェックシートを用いた育児相談で、母親は【自分に対する思い】【夫や周囲の人に対する思い】【子どもに対する思い】を語っていた。また、チェックシートを用いたことで、母親に多くの思いを語らせる関わりに通じていると考えられた。

なお本研究は、平成23年度から27年度学術研究助成基金(基盤研究C 23593310)研究課題名「母親の健康チェックシートの開発と評価—育児相談への活用と縦断調査の試み—」による助成を受けて行われた。

## 文 献

- 1) 石川麻衣, 小澤若菜, 時折美希. エンパワーメントを意図した乳児家庭全戸訪問における支援の効果 自由回答式アンケートに記載された利用者の意見の質的分析から, 高知県立大学紀要(看護学部編). 2012, 61, 13 - 24.
- 2) 小澤若菜, 石川麻衣, 川上理子, 他. 高知市との連携活動強化事業(第2報) 乳児家庭全戸訪問から把握した母子の健康と子育ての実態, 高知県立大学紀要(看護学部編). 2012, 61, 25 - 36.
- 3) 清水嘉子. 母親の育児幸福感を高めるための取り組みへの発展として, 保健師ジャーナル. 2013, 69(3), 224 - 230.
- 4) 清水嘉子. 乳幼児を育児している「母親の心の健康チェックシート」, 母性衛生. 2014, 54(4), 580 - 587.
- 5) 清水嘉子, 関水しのぶ. 母親の育児ストレス尺度—短縮版作成と妥当性の検討—, 子どもの虐待とネグレクト. 2010, 12(2), 261 - 270.
- 6) 清水嘉子, 関水しのぶ, 遠藤俊子. 母親の育児幸福感尺度の短縮版尺度開発, 日本助産学会誌. 2010, 24(2), 261 - 270.

- 7) 清水嘉子, 関水しのぶ, 遠藤俊子, 他. 母親の育児幸福感を高めるコースプログラムの実施と評価. 日本助産学会誌. 2011, 25 (2), 215 - 224.
- 8) 清水嘉子, 佐々木美香, 塩澤綾乃, 他. 「母親の心理健康チェックシート」を活用した育児相談研究, 母性衛生 第 54 回母性衛生学会総会・学術集会抄録集. 2015, 54 (3), 343.
- 9) 永谷智恵, 笹木葉子, 村田亜紀子. 母子保健相談員からみた現代家族の育児様相, 北海道文教大学研究紀要. 2012, 36, 93 - 102.
- 10) 野島佐由美, 中野綾美. 家族エンパワーメントをもたらす看護実践. 東京, ヘルス出版, 1966.
- 11) 東山絃久編著. 来談者中心療法 (心理療法ブリマーズ). 東京, ミネルボア書房, 2003.
- 12) McNamee S, Gergen J. Therapy as Social Construction. 野口裕二, 野村直樹訳. ナラティブ・セラピー, 社会構成主義の実践. 東京, 金剛出版, 1997.

**Home-visit childcare consultations by using mothers' psychological health check sheet  
: Mothers' narratives**

Nagano College of Nursing

Yoshiko Shimizu    Mika Sasaki    Noriko Ogawa    Ayano Shiozawa  
Michiru Miyahara    Hiroko Akahane    Masako Abe    Satoko Fujihara

**Abstract**

This study conducted home-visit childcare consultations, using the Mothers' Psychological Health Check Sheet and analyzed mothers' narratives gathered from these consultations. Participants were 7 counselors and 20 mothers with a child or children aged 11.95 (SD = 3.91 years). 80% of the mothers are full-time homemakers, and 90% have only one child. In our analysis, 215 of the mothers' narratives were classified into categories, using a qualitative induction method with a special focus on meanings. The categories were then appropriately named. Mothers' narratives most often pertained to Thoughts about Themselves, which comprises 4 categories, including "Awareness of influences on the child," "Time of child care," and "Personal growth resulting from child care." From these 4 categories, 18 corresponding subcategories were identified. Next, Thoughts about the Husband and People around him consists of 3 categories: "Husband's and People around him attitude toward child care," "Terms with the husband," and "New changes resulting from child care"; 9 corresponding subcategories were identified. Under Thoughts about Children, 8 subcategories correspond to the categories "Presence of the child" and "Worries about the child." Using the check sheet, the counselors were able to obtain more narratives from the mothers. Furthermore, encouraging mothers to talk seemed effective in helping them realize their feelings and also feel accepted, acknowledged, and reassured.

Key words : mothers caring for infants and toddlers, health check sheet, childcare consultation, narratives, home-visit